

大分県におけるクリのキクイムシ類の発生状況について

野上 隆 史 ・ 中 島 三 夫 ・ 安 藤 俊 二
(大分県農業技術センター)

NOGAMI, T., NAKASHIMA, M. and ANDO, S.

Notes on the Occurrence of the Wood Boring Beetles (Ipidae)
Attacking Chestnuts in Oita Pref., Kyushu

1964年4月頃、県下のクリ園にキクイムシ類が異常発生し、栽培面積の約50%に当たる574 haが被害を受けた。一方本県における発生生態、防除対策等については未だ十分でないで、ここに1964~67年まで調査研究してきた概要を報告する。本研究を行なうにあたり種々御教示いただいた当センター小山内懋所長、同植物防疫部藤川隆部長、同富来務科長並びに病虫害防除所の各位に対し感謝の意を表す。

1. 発生概況

大分県における1964~66年までの発生地域および発生面積は第1表のとおりである。発生は一般に寒

第1表 クリ被害面積ならびに被害面積率の推移

調査事項 防除別	1964年		1965年		1966年	
	被害面積	被害面積率	被害面積	被害面積率	被害面積	被害面積率
高田	16.0	48.5	12.0	26.0	7.0	9.0
国東	10.0	50.0	4.0	22.5	4.0	16.7
日出	22.0	57.9	18.2	44.9	2.5	4.9
三好	25.0	41.1	0	0	0	0
白井	0	0	0	0	0	0
佐伯	20.0	35.1	4.5	16.7	5.1	12.5
中津	95.0	42.6	115.5	57.5	86.5	28.8
竹田	27.0	45.5	1.4	2.9	10.5	17.0
玖珠	30.0	52.2	22.0	15.4	15.0	7.4
日田	227.0	62.4	25.9	16.8	20.4	10.2
中津	69.0	58.0	18.4	16.8	74.2	55.2
宇佐	41.0	47.1	2.9	6.2	5.5	10.1
杵築	574.0	50.0	254.6	23.5	228.5	18.2

備考：1964年11月27日現在、他11月30日現在。

気流の停滞しやすい園や排水不良園に多く、特に根に障害を受けたものや、軟弱徒長ぎみの樹、あるいは5年生以下の幼樹に多かった。しかし1965年以降は本虫の被害が漸次減少の傾向にあるようである。

2. クリの品種と被害との関係

これまで被害の確認された品種は豊多摩早生、森早生、大和早生、山口早生、5-7号、筑波、丹沢、銀寄、伊吹、利平、今北、赤中、岸根、乙宗、有摩および七福の16品種でいづれも芝栗台木が使用され、本虫に抵抗性を示す品種は認められなかった。

3. 種類

これまで筆者等はクリからハンノー、サクセヌー、アカクビー、サカクレノー、クスノオオー、ミカド

一の各キクイムシ6種と、さらにカキからヤチダモノナガキクイムシを採集した。なおこの外に不明2種(クリ・ミカン)を加えて合計9種類を採集した。また1966年の調査では、同一園内においても数種類による加害が認められ、さらに中津市ではサクセスキクイムシ、院内町ではアカクビキクイムシの採集数が多く、地域によってキクイムシの種類は若干異なるようであった。

4. 越冬状況

1967年2月と11月に越冬状況について調査した結果は第2表のとおりである。この結果多数のアカク

第2表 越冬キクイムシの生息部位と被害樹の関係

調査事項 樹高10m以下の高さ	1967年2月調査					1967年11月調査					
	幹	食害孔数	雌	雄	計	幹	食害孔数	雌	雄	計	
アカクビ	0 ~ 5 cm	1.19	120	259	26	265	2.70	16	101	8	109
	5.1 ~ 10	5.80	57	5	0	5	2.50	1	5	1	6
キクイムシ	10.1 ~ 15	5.62	54	0	0	0	2.18	0	1	0	1
	15.1 ~ 20	5.46	51	0	0	0	2.02	2	0	0	0
ハンノー	0 ~ 5 cm	—	—	—	—	—	2.69	14	51	0	51
	5.1 ~ 10	—	—	—	—	—	2.49	5	5	0	5
	10.1 ~ 15	—	—	—	—	—	2.51	7	0	0	0
イムシ	15.1 ~ 20	—	—	—	—	—	2.19	1	0	0	0

備考：1) 調査地点は安心院新原(2月11日)と日田郡大山村松原(11月9日)。2) 幹は安心院町5樹、大山村松原は2樹平均で示した。なお食害孔数、食入虫数はいづれも合計数で示した。

ビキクイムシ、ハンノキクイムシが適当な水分を含んだ樹勢の弱いクリ樹、および半枯木の地際に近い幹の部分と根部に孔道を作り、成虫態で越冬していることを確認した。

総括

本県におけるクリのキクイムシ類は1964年に異常発生がみられ、特に5年生以下の幼樹に多かった。また本虫に抵抗性を示す品種は認められなかった。一方本県においてキクイムシ類9種を採集したが、このうちアカクビキクイムシ、サクセスキクイムシ、ハンノキクイムシ等が主体であった。さらに多数のアカクビキクイムシ、ハンノキクイムシが樹勢の弱ったクリ樹や半枯木の地際に近い幹の部分に孔道を作り、成虫態で越冬していることを確認した。